

第6学年研究授業 指導案

第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

日 時 令和6年11月27日5校時

13:40~14:25

対 象 第6学年1組35名・2組34名

1 単元名 「共に創ろう 未来の水門通り商店街」【B地域の創生】(総合15時間扱い)

2 単元目標

水門通り商店街の情報収集を通して、魅力・課題・可能性を考え、どのような商店街を創ると多くの人が足を運びやすくなるかを考えることができる。また、商店街で働く方や地域の方々との交流を通して、未来の水門通り商店街のあり方を具体的に検討することができる。

3 単元の評価規準

内 容	過 学 程 習	ア知識及び技能	イ思考力、判断力、表現力 等	ウ主体的に学習に 取り組む態度
B 地 域 の 創 生	コ ン セ プ ト	①水門通り商店街に関する情報を多面的、多角的に収集することができる。	①収集した情報を整理して、地域創生のコンセプトを設定することができる。	①コンセプトを設定するために、講話を聞くことや調査等にすすんで取り組み、収集した情報を協働して、整理しようとしている。
	デ ザ イ ン	②新たなアイデアやデザインを生み出すために、現行の地域創生の取り組みに関する知識を習得することができる。 ③習得した知識を基に新たなアイデアやデザインを生み出すことができる。	②コンセプトに合った地域創生の取り組みのアイデアやデザインを地域性、公共性、持続可能性等を踏まえて考えることができる。	②コンセプトに合った地域創生の取り組みのアイデアやデザインを創出するために、自分と他者のよさを生かし、協働的に取り組もうとしている。
	ク リ エ イ シ ョ ン	④新たな地域を創生の取り組みの価値を関係者に分かりやすく伝えることができる。	③調査の結果や商店街の関係者からのフィードバックや他者からのアドバイス等を生かし、試行錯誤を重ね、内容を改善することができる。	③調査の結果や商店街の関係者からのフィードバックからすすんで検証、改善をしようとしている。 〈試行錯誤〉
共 通 事 項	I C T の 活 用	⑤Google Chrome 端末を使用して行う情報収集や、資料・動画作成の基本的な操作方法を身に付けている。	④Google Chrome 端末の特性を生かし、活動の効率を上げたり、分かりやすく表現したりして、効果的に活用している。	④モラルや他者意識をもって①Google Chrome 端末を活用しようとしている。 ⑤他者との協働、振り返りと改善のために①Google Chrome 端末活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、「おおたの未来づくり」の教科における「B 地域の創生」の領域に当たる学習である。本単元の学習では、学区域内にある「水門通り商店街」との連携を図ることで、地域の身近な問題に関心を持つことができるようにする。また、「水門通り商店街」の運営に携わる人々との関わりの中で、地域のために工夫や努力をしている人達がいることに気付くとともに、その活動に関心をもち、自分たちもその活動に関わっていく意欲をもたせることで、地域の未来を創造していく気持ちを育みたい。

本単元では単元全体をコンセプト・デザイン・クリエイションの3つのステージに分けて学習を行う。コンセプトでは、水門通り商店街についての情報を、講和を聞いたり、調査をしたりする活動を通して収集、整理することで、学習全体の方針を定めていく。デザインでは、コンセプトで収集した情報を基に、地域創生の取り組みの新たなアイデアやデザインを地域性、公共性、持続可能性等を踏まえて協同的に創出していく活動を行う。クリエイションでは、新たな地域創生の取り組みについての具体的なアイデアを商店街に携わる人々に伝えとともに、フィードバックを受けることで他者からのアドバイスを生かし試行錯誤を重ね、内容を改善していく態度を養っていく。以上の学習を通して、児童が自分の住む地域に関心をもち、地域とともに成長していくとする気持ちを育てていくようにする。

(2) 社会で活躍する人（授業パートナー）の連携

水門通り商店街振興組合（G-round）は、「地域で描く円と縁」をスローガンに、大田区の地域活性化を目指している。雑色駅前広場のスペースを有効活用し、地域住民との交流や、地域企業の PR 機会の創出、地域人材の活用、こどもが楽しめるスペースの提供や催し物の開催などを包括的に行い、精力的に活動している。こうした水門通り商店街振興組合の取り組みの一環として、おおたの未来づくり科の学習を行う南六郷小学校に協力をしていただけることとなった。水門通り商店街振興組合（G-round）は、大田の未来づくり科の学習に協力していく上で、子どもたちの地域創生活動のコンセプトとして、「こどもたちが気軽に立ち寄れる水門通り商店街を創ってほしい」と話している。現実的なアイデアだけでなく、こどもらしい、夢のあるアイデアを児童が考えていくことで、「商店街のイメージを変えていきたい」という水門通り商店街振興組合の思いに繋げていきたい。

水門通り商店街振興組合との学習では、こうした水門通り商店街振興組合の姿勢によって、自分たちが考えたアイデアが実際に採用され、実現していく過程を体験することができる。提案を受け入れてもらうために試行錯誤してアイデアを精錬していく活動の楽しさや、それが採用される嬉しさを味わうことは、学校教育の場ではあまり体験することができず、おおたの未来づくり科ならではのと言える。

(3) 学習過程

実社会で活躍する人との出会い等	水門通り商店街の現状を知るために、予備知識の共有やブラウザ検索を用いて、情報収集する能力について重点的に指導する。
コンセプト	水門通り商店街青年部との対話を通して、要望を把握し、企画のアイデアを探究していく能力について重点的に指導する。
デザイン	水門通り商店街青年部の方から受けた要望に沿って、グループで設定したコンセプトを実現可能な企画になるよう、具体的なアイデアへと構築、再構築していく能力について重点的に指導する。
クリエイション	自分たちのアイデアを水門通り商店街で働く人にプレゼンテーションし、プレゼンテーション後のフィードバックを通して、実現可能な方法を検討する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーション完成までの取り組みや自分たちの考えた計画やまとめたアイデアを、水門通り商店街青年部の方に分かりやすく伝える知識及び技能について重点的に指導する。

5 児童の実態

水門通り商店街については、2年生や3年生時の既習事項に加えて、日常的に通ったりお店を利用したりしているなど、実態をよく理解している児童が多いように感じた。また、定期的に開催されているマルシェにも多くの児童に参加しており、肯定的な印象を抱いていた。一方で、どのような場所だと休日に遊びに行きたくなるかという問いには、大手のファーストフード店やレストラン、カフェや100円ショップが欲しいというような回答が目立った。実際に商店街を盛り上げている青年部の方々と対話をする中で、共に魅力的な商店街を創っていくという当事者意識をもたせていきたい。

ICT機器の活用においては、各教科の学習だけでなく、係活動などの場面でも積極的に使用しており、文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトなど必要に応じて作成できる児童が多い。本単元では、他者に自分たちの提案に共感してもらえるように説得力のある発表が求められる。原稿を先に用意し、その内容に対してどのような資料を提示すると聞き手が理解しやすくなるか、という相手意識をもった資料作りを意識させたい。自信をもって自分の考えを発表することに対して不安を強く感じているため、役割分担を行い、発表に向けて準備するべきことを明確にする、きちんと練習して臨む、一人一人が役割をもって発表を行う。

6 指導の手だて

(1) ICT機器を活用した授業づくり

コンセプト設定の段階で、オクリンクの「みんなの広場」を使用して、アイディアを学年で共有する。初めは、アイディアの量を重視し、匿名で意見出し合うことで様々な考えに触れたり、自分の考えと比較したりさせる。また、出てきたアイディアを【イベント・店舗開発・広報活動】という3つに分類しシートの色ごとに分けることで、自分がどの分類に興味があるのかを可視化させる。

(2) 授業パートナーとの連携した授業づくり

授業パートナーとなる【水門通り商店街青年部】の方々とは単元づくりの段階から連携し、児童とは以下の3つの学習過程ごとに出会う場面を設定する。

①コンセプト

授業パートナーと出会い、対話形式で水門通り商店街の実態や児童に求めること、児童の要望を伝え合えるようにする。

②デザイン

グループごとに準備を進める授業に参加してもらい、提案の進捗状況を伝える。実現可能な手立てを提示してもらったり、実態とそぐわない場合に修正してもらったりするなど、児童が直接、アドバイスを受けられる場面を用意する。

③クリエーション

児童の提案を聞いてもらい、フィードバックを受ける。事前にすべてのグループの資料を渡し、授業では児童同士で選出した代表グループがプレゼンテーションを行い、良さや課題などを直接聞けるようにする。

(3) 他教科で学んだ知識・技能を活用した授業づくり

論理的で聞きやすい発表ができるように、国語の説明的な文章で学んだ文章の構成を想起させて発表原稿を作成する。低学年から学んでいる【はじめ・なか・おわり】で文章をまとめていく。【双括型】の構成が、発表には適していることを感じさせ、自分たちの提案を明確に示した後に、詳しい内容などを順序立てて説明できるようにする。

司書教諭と連携し、調べ学習の過程を本単元で活用させる。テーマ設定の手順・取材方法・資料の作成方法などを学ぶことで、説得力のあるプレゼンテーションを行えるようにする。

7 指導計画

時	学習過程	○主な学習活動 ★留意点	評価規準 【観点】(方法)
1 ～ 4	コンセプト	○水門通り商店街の実態を調べ、他の商店街と比べる。 ★予備知識の共有やブラウザ検索を用いて、情報を収集させる。 ○水門通り商店街青年部の方から、企画提案の依頼を受ける。 ★授業パートナーとの対話を通して、要望を把握させ、企画のアイデアを検討するように導く。 ○収集した情報や出し合ったアイデアを整理してグループごとのコンセプトを設定する。 ★オクリンクを活用して、様々なアイデアの中から主体的に活動できる内容を選択させる。	【知】① (観察・発言) 【主】① (観察・発言) 【思】① (観察・オクリンク)
5 ～ 12	デザイン	○グループで設定したコンセプトを実現可能な企画になるように考える。 ★授業パートナーから受けた要望に沿って、自ら魅力的な商店街を創造するという当事者意識をもって取り組ませる。 ★授業パートナーを招き、中間報告とフィードバックを行う。 ★説明文の構成を基にして、企画の魅力が伝わるような発表原稿を作る。 ○スライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。 ★発表原稿の内容が聞き手に理解しやすいように、Google スライドでプレゼン資料を作成する。	【知】②③ 【思】② 【主】② (観察・発言) 【知】⑤ 【主】④⑤ (観察、発表資料)
13 ・ 14 ・ 15	クリエーション	○グループごとに考えた企画のプレゼンテーションを聞き合い、感想や質問を伝え合う。 ★他の発表のよいところを共有する。 ★提案をよりよいものにするきっかけのために、質問をし合う。 ○授業パートナーに企画をプレゼンテーションする。 ★発表原稿と資料は事前に送付し、授業での発表は代表のグループが行う。 ★授業パートナーからのフィードバックを聞き、ふりかえる。	【知】④ 【思】③ (発表内容) 【思】④ 【主】③ (発表内容)

8 本時の指導（全 15（総合で 15 時間の設定（未来づくりでは 35 時間の設定）時間中の第 14 時）

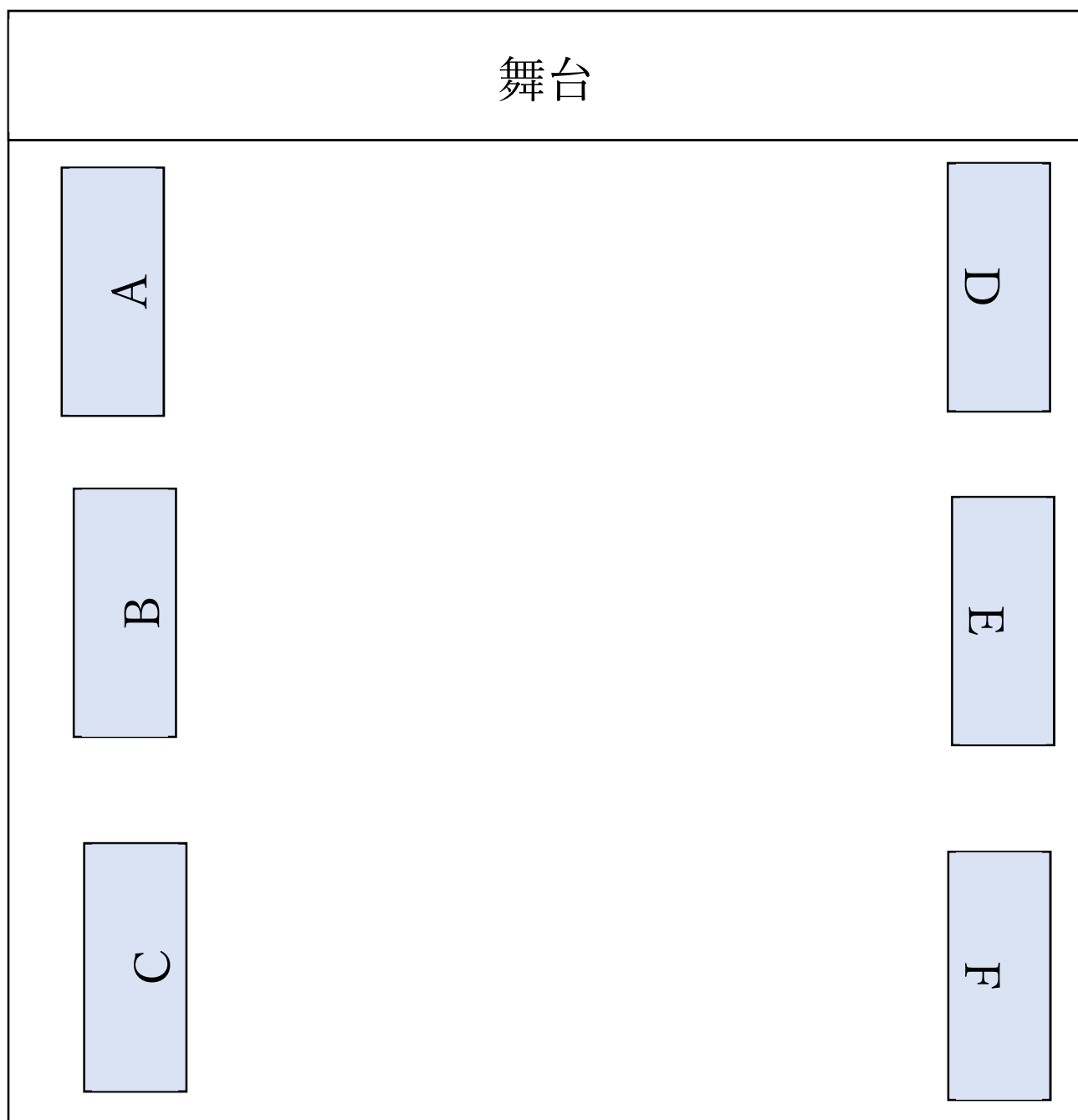
（1）目標

自分の考えを相手に伝えるために資料などを活用して効果的に話すとともに、目的意識をもって相手の意見を聞くことができる。

（2）展開

時	○主な学習活動	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて ※指導上の留意点
導入 (5)	○学習のゴール、学習計画、前時に取り組んだことや課題となっていたことを振り返る。 ○本時のめあてを設定する。 ○本時の学習活動の流れを確認する。	★事前に ①提案の魅力 ②準備・必要なこと ③具体的な内容 という観点を示し、それに基づいて発表したり質問したりするように促す。
プレゼンテーションし合って、自分の考えを深めよう。②		
展開 (35)	○グループごとにプレゼンテーションする。 ・6グループが発表し、他の人は各ブースを順番に回りながら発表を聞く。 発表者 ・役割分担に沿って、全員で協力して発表する。 聞き手 ・提案のよいところを伝える。 ・提案をよりよいものにすきかけのために、質問をする。	★スピーチをする人、スライドを操作する人、時間管理をする人など役割分担をさせる。 ★時間を管理する人は、1分ごとに合図を出し、発表がスムーズに進むように管理させる。 ★全ての提案の中から代表を決めるという意識を持って、発表を聞くよう促す。 ★授業の始めに示した観点に沿って発表を聞くよう、声をかける。 ◆【知】④【思】④（発表内容）
振り返り (5)	○ふりかえりを行い、次時の内容を確認する。 ・他の発表のよいところを共有する。 ・発表し合って学んだことを確認する。 ・授業パートナーに資料を渡し、代表グループが発表することを確認する。	★フィードバックの中で出た、良い感想や質問を全体場で共有する。 ★資料を送る前に、発表を通して修正・追加したい内容があるかどうかを考えさせる。

(3) 会場図



9 当日の授業の様子

